

ISTH Council Report 2024

東海大学医学部内科学系循環器内科学

後藤信哉

今回バンコクで行われた ISTH2024 の直前に ISTH の理事である Council Member の選挙が行われた。これまで日本では奈良県立医科大学の嶋緑倫先生が Council Member を務めていた。血栓止血情報センターとしては嶋先生の任期が切れる前に日本から二人目の Council member を送り込めるように活動したが成功しなかった。嶋先生の任期が切れてしまうと日本人の Council Member がいなくなってしまう。日本からの意見が ISTH に届かなくなり、ISTH の活動方針も日本に伝わらなくなってしまう。危機的状況の中で、国内の多く先生方の推薦を受けて筆者が Council Member の選挙に立候補した。筆者は一般的選挙運動が苦手である。政治家的素質はない。幸い、筆者以外の多くの先生が海外の ISTH 会員に筆者を推薦してくれたこともあって Council Member に選ばれた。

海外の学会活動として筆者は米国の American Heart Association の雑誌 Circulation の編集委員を務めている。今年で 9 年目になるが Circulation の Associate Editor の仕事は極めてきつい。年間 6000 投稿される論文から top 5% を選定する。読み・書きの英語でも大変だが、自分が担当した論文のうち、採択したいと思う論文があった場合には 2 週に 1 度開催される Editor Meeting で他の Editor を説得せねばならない。夜 9 時ないし 10 時から 11 時ないし 0 時までの英語のミーティングは確実に筆者の体力を奪い、健康状況も悪化させたと思う。ISTH の理事立候補のお話を頂いたときに、Circulation AE にさらに ISTH council をするのは無理だと思った。筆者は循環器内科医ではあるが、血栓止血学会に特にお世話になっている。最後には先輩への恩返しと考えて Circulation AE を止める覚悟で立候補した。

当選後、Council member の Duty について online の解説があった。基本的には年に 2 度開催される Council meeting に出席すればよい。ISTH の多数の委員会のうち 2 つに貢献すればよい。毎日多数の論文を読んで二週に 1 度夜中 2 時間拘束される Circulation AE よりは大いぶ楽で助かった。Council member の交代は ISTH 2024 の時と指定された。council member の重要な役割である理事会は ISTH 2024 の前日に開催された。筆者は ISTH2024 の前日はまだ council member ではない。しかし、Council Member の役割を理解させるために前日の council meeting には observer としての参加が要請された。

ISTH の理事会は Whole day meeting である。ISTH の運営の実態を理解していないものでも仕組みがわかるように徹底的に解説された。また council member として知り得た情報の多くは confidential であるとされた。血栓止血情報センターの先生方に全貌をお話することはできない。

筆者は observe であったため会議中発言ができない。ISTH の開催場所についての議論があったときにはよほど発言しようかと思った。池田康夫先生が主催された ISTH2011 は素

晴らしい学会であった。震災後での開催にもかかわらず参加者も多かった。血栓止血学における日本の存在を示した素晴らしい会であった。開催当事者に全てを任せる ISTH2011 のような学会開催は今後行われない。北米と欧州が重視される。日本を含めて欧米以外の研究者はよほど気を引き締めてかからないと ISTH の中枢から外れてしまう。情報センターの先生方には若手研究者の指導を通じて ISTH への貢献を大きくして欲しい。

情報センターの先生方のご意見を ISTH に繋げることが筆者の重要な役割になりました。何かあれば sgoto3@tokai.ac.jp にご連絡下さい。引き続きご支援をお願いします。